

平成27年度第2回若葉区支え合いのまち推進協議会会議録

日 時：平成27年10月30日（金）

10時00分～12時00分

場 所：若葉保健福祉センター3階 大会議室

委員定数：30名 出席委員：18名

事務局：7名 傍聴人：0名

【1】次第

1 開会

2 若葉区支え合いのまち推進協議会委員長挨拶

3 議題

（1）若葉区支え合い活動アンケートの結果について

（2）事例発表

加曽利地区部会、桜木地区部会、更科地区部会

4 閉会

【2】議事要旨

2 議題

【議題1】若葉区支え合い活動アンケートの結果について—事務局（高齢障害支援課）から発表—

高齢障害支援課長
山中課長

若葉区支え合い活動アンケートの状況について、自治会・社協地区部会・老人クラブ・ボランティア団体など257団体に対してまして、6月6日～8月14日までアンケートをお願いし、「若葉区支え合いのまち推進協議会」としてとりまとめた結果を報告させていただきます。

1 若葉区でどんな活動が行われているか。

・支え合い活動を項目別に整理し、活動数の多い順にみると、上位5項目で全体の70%を占めておりこれらが主な傾向であります。今回のアンケートで把握した活動総数全体656件分の126件となり19%となりました。

次いで、防犯活動16%、気軽に過ごせる居場所づくり14%、地域でできる介護予防11%、公園やサークル活動を利用した交流機会の創出11%となっています。

・若葉区の支え合い活動としては、自治会を中心に防災・減災、防犯の活動が広く行われており、地域の危機管理の意識が高まっていることがうかがわれます。

2 活動主体によって活動内容にどんな違いがあるか。

（1）町内自治会

・自主防災組織の結成や防災訓練の実施、町内のパトロールなどの防犯活動が多く行われており、自然災害・犯罪・高齢者の見守りなどに対する危機管理に取り組んでいます。

（2）社会福祉協議会地区部会

・各地区部会では、地区の自治会活動などに協力するとともに、高齢者の集いの場であるサロンの開催や介護予防・健康づくりなどの活動が上位を占め、それらの合計で活動全体の56%を占めています。最近では「あんしんケアセンター」などとともに「地域ケア会議」の開催も始まっています。

（3）老人クラブ

・老人クラブでは、若葉区老人クラブ連合会や区内の3つの地区連合会において、様々な活動が行われていますが、趣味を生かしたサークル活動などの交流機会の創出が40%、サロンなどの居場所づくりが18%となっています。

（4）ボランティアグループ

・今回のアンケートでは回答数が7件でしたが、活動内容としては、福祉施設でのふれあい活動や声かけ・あいさつ運動、障害のある方との交流、介護予防・健康づくりでした。

・アンケート全656件の活動のうち、121件の活動において地区部会だけでなく2団体以上が共催で活動しているとの回答がありました。各団体の連携により、それぞれの持つ経験・ノウハウ・人材・組織力などを生かし、より実効性のある活動が可能になると考えます。また、それぞれの団体の取

組みをお互いに理解することが、連携の強化や活動の効率化につながることから、今後とも情報の一元化に努める必要があると考えます。

・ 今後はアンケートをベースとしてお互いがこんなことをやっているのかというように関心をもっていただければと存じます。

3 地区別活動内容

・ 社協地区部会エリア（14地区）に分けて上位5つの主な活動を見てみると、「防災・防犯の活動」が全ての地区で行われ、活動数は220件となっています。

次いで、サロンなどの「気軽に過ごせる居場所づくり」は12地区、活動数は76件、「地域でできる介護予防・健康づくり」は9地区55件、公園やサークル活動を利用した交流機会の創出」は9地区47件です。

・ 地区によって、活動の進め方に差異が見られます。社協地区部会から自治体に働きかけ、支え合い活動を協力して行っているケース、自治体組織に福祉活動専門の役員を設けて支え合い活動に取り組んでいるケースなどがありますが、多くの地区において、社協地区部会として自治会を中心とした地区内の連携を求めている状況です。

今後は、地区の実情に合わせた地区内の連携が大きな課題であるといえます。

・ 補足ですが、資料内での地別世帯数、人口数は市の統計を用いていますが、町が2つの地区部会にまたがった場合など町丁ごとの数値を正確に集計できないことから、あくまでもエリアの規模を表す参考数値です。

4 3年以内（第2期地域福祉計画の計画）に立ち上がった活動

・ 65件との回答でした。社協地区部会エリア（14地区）の1地区あたり、3年で4.6件立ち上がったことになります。

上位2項目としては「気軽に過ごせる居場所づくり」及び「地域でできる介護予防・健康づくり」となっておりますが、これらは第3期計画の重点取組項目でも上位2項目となっており、若葉区の重要課題として認識されるとともに新たな取組みの内容としても多く取り上げられています。

5 活動のスタッフ数及び参加者数

・ 一つひとつの活動について、スタッフ数及び参加者をお聞きして、地区部会エリアごとに集計しました。回答を頂いていない自治会などが多くあるため、地区別の数値は実態とは異なりますが、自治会のスタッフ合計は、1,808名、社協地区部会のスタッフ合計は1,265名もおりました。

・ 今後も、若葉区推進協として、活動状況の広がり把握する観点から、活動数の把握とともに資料に追加していきたい。

委員長

・ アンケートは難しいですね。問いかけの内容によって回答が違ってくる。今後も改良を加え角度を上げていってほしいです。

・ 参考までにここ1か月前から朝日新聞のデジタル版で、町内自治会が必要あるかどうかという記事がありました。

必ずしもデジタル版なので正確さはわかりませんが、必要性があるといっ

た多くの意見では、安心・安全のためというものでありました。まさにアンケートでも防災・防犯というものが多かったですね。だいたい傾向が正しく反映されていると思われます。

・2番目に必要とされたものは、行政とのパイプ役として存在意義がある。千葉市でいえば、千葉市政だよりを自治会経由で配るというのがある。市からの市民に対する情報提供ですね。逆に市民からの要望をまとめて市に届けるという役割として期待されている。

・必要ないという意見は、役員のなり手がいない、役員が高齢化としているというものでした。今後の参考までに。

(質疑応答)

委員 A

・感想意見として、私の自治会からアンケートが出なかった。自治会長には補助金が出るだけのものに対してだけでなく、こういったものに対しても協力してほしいと伝えました。自治会、地区部会の活動で力を入れている活動の現状がよくわかった。そしてこういった中から、私たちの自治会の活動として力を入れていくべきものがわかった。特に注目したところは、二団体以上が共催で活動をしているものでした。これから、老人会なども隣の地区と共催してサロンを行うなど共同開設をしていきたいと思いました。

高齢障害支援課長 山中課長

・ご意見ありがとうございます。

アンケートの結果については、各自治会に周知したい。結果をコンパクトにしたもので主なことを、回覧したい。今までも推進協だよりを年1、2回発行しておりますが、今回の推進協だよりとして、各町内自治会に、周知していきたい。

(質疑応答)

委員 B

・個人的な感想ですが、地域によって違います。同じ若葉区でも都賀、みつわ台などの都市部から出るアンケートと白井地区、更科地区などの農村部では、人口構成や年齢層も違うと思う。農村部では定年後も自分の田んぼをかかえているからボランティアが出来ず、自分の生活で手一杯である。

都市部では家や土地があるが特にかかえていることがないから、ボランティアに入りやすい。

石破大臣が地方創生をかかげているが、若葉区で地方創生をするにも、若葉区のどの地区をするのか、農村部はどうするのか。若葉区の中でも住民にも差があるので、生活実態をつかんで実現してほしい。

アンケートにも生活実態を含んだうえでできればと考えます。

高齢障害支援課長 山中課長

・おっしゃるとおり、地区の状況をどうやって分析把握していくことが大事だと思います。残念ながらまだ第一回目のアンケートということで、正確な結果は出ないので、数値をもとに、いろいろ語ってしまうと、誤解が出てし

まうので、今後、精度を上げていくことや、違う項目を増やしていければと
考えます。

委員長

・地域性までアンケートに反映することは難しいことと思われます。高齢障害支援課からもあったようにこの数字多いからやっている、少ないからやっていないというものではないことをご了承ください。

(質疑応答)

委員 C

・支え合いで、効果的な支え合いは支える人と支えられる人とのバランスが大切です。

・現実的にはマンパワーに頼るしかない。支えられる人を減らして支える人を増やす。支えられる人のために、支える人を増やすことを重点的に増やしたい。アンケートでは支える側の対策をどうしていこうかというのが少ないと感じます。支える側の対策です。

私どもの地区として今年から始まった健康づくり、「握力と歩く力を蓄えよう」をやっている。

私どものある自治会で、65歳以上が対象ですが、64歳でもお手伝いができる方は来てくださいとしたら、来てくださる方もいた。この方たちは今後も私たちの事業には積極的に参加してくださると思われます。

今後はそういった方々を掘り起こすといったことが重要だと考えます。

またある自治会では握力計だけ貸してくれたら私たちだけでやるといった方々もありました。

支える人と支えられる人のバランスが重要と考えます。

委員長

・参考までに、私どもも支える人、支えられる人という関係の事業を立ち上げたとき募集すると結構支える人がたくさんいる。

ただ、今現役なので3年たったらやるといった人がいる。気持ちがあってもできない。

定年65歳をめどだと思いますが、こういう統計上高齢者でも、視力体力あるよといった方、社会的経験あるよといった人を増やしたい。

委員 D

・今回のアンケート、中身は濃いと考えます。

ここからより進展していくために、自治会と社協、これがアンケートの内容に共通点はあっても自治会と社協の質問項目を変えてほしい。

・なぜかという先ほど二つ団体の協力がเพิ่มด้วยて話が、良い話ですが自治会、社協という二つの役割として、社協は社協なりのリードが必要と考える。

委員長

・ご自分の地域と何が違うかという視点で改めて見てほしい。
事務局には今後さらに違う角度から進めてほしい。

2 議題

【議題2】支え合いのまち推進事例発表ー加曾利地区部会、桜木地区部会、更科地区部会から発表ー

委員D
発表1

・支え合いのまち推進計画・地区部会エリアごとの重点取り組み状況について私の地区の内容を発表させていただきます。

・四項目に重点をおいて取り組んでおります。

(1) 人材発掘、助け合いの会ボランティア確保

(2) 団体交流

(3) 防災・減災運動

(4) 福祉教育

となっております。

まだ、本格的な軌道にのっているものではありませんが、現状についてお話させていただきます。

・一つは去年から初めていることですが、団体交流として地域ケア会議です。昨年は四回実施させていただきました。

今年は昨年の様子を見ながら三回実施しようとしています。

・資料としては本年一回目と二回目になりますが、内容としては、民生委員自治会関係者、社協関係者、保健施設関係者が参加して、具体的な事例・悩みを皆で相談し、その対応策を皆で共有化し解決していくための会議です。

・テーマはそのときにほっとなものにしていくということで、一回目はオレオレ詐欺についての問題で実際にあった具体例をもとに話せた。もう一つは介護施設でどこを利用したらよいかということで、会議をしました。

・二回目は、ケアの対象者が増える中で、ケアする人のケアに取り組めるかを会議しました。皆さんに特にお伝えしたいことが、「元気で介護を続けるため」には、三つある。

① 介護の喜びを実感する。

② 疲れをためない。

③ 自分の人生を楽しむ。

というものでした。

・ケア会議では、そのときほっとなものを引っ張り出して行うので、自治会、民生委員はみんな参加してほしい。これは効果が高いので、ぜひ他の方の地区の方も参加してください。

・もう一つ力を入れているのが、各自治会の役員との交流。社協と自治会ごと半日かけてデスカッションしている。今は高齢者見守りと、助け合いの会の展開。いろんな問題が出る。防災・減災の問題について社協でできない。これは自治会がやる。どうやったら自治会ができるか。そこで進んで実行している自治会の内容を伝える係りが社協になる。こういううまくやり方をしている。その時に配ったのが、心配ごと相談《電話先一覧表》になります。

75歳のいる世帯に全員に配る。ラミネートしたものを配り、電話帳の後ろにでも入れといてくださいとして、各自治会に話し合いにいったときに配り、行き渡るようにした。

(質疑応答)

委員 E

・先ほど、オレオレ詐欺の対抗策としてありましたが、並行してマイナンバー制度の仕組みを理解して、オレオレ詐欺みたいな犯罪に対してどうやって対応していくか。早くも犯罪がすでにおきている。

私もそうですが、マイナンバー制度を理解しないうちに、マイナンバーが配られる。もっとたちが悪い。いろんな福祉関係との関わりを整理して皆さんに伝えていきたいですし私も勉強していきたい。

委員 D

・わかりました。早速来年のテーマに入れてやります。

(質疑応答)

委員 F

・自転車通行ラインについてわからないことが多いので、やはりなんらかの対応について話しをしてほしい。

委員 D

・わかりました。

委員 G

発表 2

・三期計画の二十七年度は防災・減災の計画実施に向かってやっております。
・始めに、役員及び福祉活動推進との協議をし、地区部会、加入 20 町内自治会自治会の説明会を開催し、皆さんの声をききながら、この訓練に賛成していただけるか話し合いました。参加されたメンバーのほとんどは前向きに考えていただきました。それで、第一段階として会場、次に消防署に出向き地区においてこういった訓練をやりたい旨を話しました。次に地域振興課のくらしあんしん室などに打ち合わせに行き、防災訓練をやりたい旨をし、実施などの打ち合わせをしました。その後、役員会を開催し、今後の流れについて協議いたしました。

最初 20 町内自治会の 1 段階目として案内文を作成し、この訓練に参加できるかの確認で各自治会に配りました。その案内の中に、各町内自治会で多くとも 30 人くらいまで参加という人数の目安をいれました。案内は各町内自治会長に郵送し、参加確認を取りました。結果 308 名という参加者になりました。

・雨天の場合は体育館のみで二つくらいブースを設けました。

話は前後しますが 5 つのブースを設けました。地震が発生したことを想定。自分の身を守ってから行動していただくという訓練。集合場所に集まりまとまって集合していただくという内容です。訓練内容として、煙体験、消火器の扱い、119 番通報、AED になります。

・くらしあんしん室には備蓄品の提供についていただける回答をもらいました。

・防災組織については 80 円の補助金がもらえることもききました。

・問題は実施日なんです、11 月 8 日（日）になります。

・308 名ということで各ブースがスムーズに当日流れるように 17 町内自

治会にだいたい70名編成でまわれるような表をつくりました。

- ・防災訓練として中学校の校庭、体育館を利用させていただきました。
- ・受けつけで混雑しないように表をつくりました。
- ・苦労した点は、消防署、区役所に何回足を運んだか。一つ一つが我々素人なので、どうやって参加していただけるか、一番不安でした。最終的に308名参加していただけたことでほっとしております。

(質疑応答)

委員長

- ・各避難所には、避難所委員会というか、千葉市として推進していると思いますが、そことの関わりはどうか。
- また、20町内から避難訓練に対して、否定的だったのですか。

委員 G

- ・連携はしてません。今回17町内会が共同で参加しており、実際の避難所とは違うため、あくまでも本当の避難所ではないため連携しませんでした。
- 訓練には賛成的でした。ただ避難所が本当との場所と違うこと、実施日が町内単独でやっている日と重なっていて参加できないということがありました。

**委員 H
発表 3**

- ・この地区は、明治以降国の方針に従い隣組制度を発揮して、連帯意識を育んできた地域でした。平成に入って人口減が顕著になってきた。連帯意識も連帯感も絆も見えてこなくなってきた。社協が示された三か年の計画で四つほどかけました。

- ・助け合い活動の仕組みづくり
- ・福祉施設や地域行事へのふれあい交流活動
- ・気軽に過ごせる居場所づくり
- ・防災・減災活動

その一つの項目であります、助け合い活動の仕組みづくりをどうしようかということになりました。地域ぐるみで声掛け、あいさつ運動をしましょうという中で、社協とは何ということを地域皆様にまでおぼえてもらいましょうということを考えました。

そこで原点に立ち返って、我々の地域はどうかと考えました。両隣が崖、前は田んぼ、後ろは山です。近所付き合いはかなり遠い場所にしか家がありません。どうしようと考えたとき、隣組の歌をつくりました。

それで社協とは何、地域の住民はどうしたらよいかをCD化しました。

社協と連携しましたので、聞いてください。

—隣組歌—

- ・今やっているのは、催事の際に流している。敬老会、運動会、文化祭、風揚げ等で流しています。各自治会の集会のあるごとに聞いて和んでいただいて、社協とは何とか相談とかしていきたい。二八年度は、新入学生や新学期

等の登校児童に声かえ等しながら流していきたい。二九年度は最後の年は、月一回小学児童の通学児童に進めていきたい。

(質疑応答)

委員長

・昔からある自主防災の消防関係で青年が組織化されてボランティア組織、自営防災の組織はあるのですか。

委員 H

・こちらの地区ではある地区もあれば、私の地区ではない。人手不足により消防団は解散しました。

委員 I

・私の地区では建物、建物に中に入る消防関係の物は整備させていただきました。

委員長

・消防団の役割はどうなんですか。消防車がくるまでの対応ですか。

委員 I

・消防車が来るまでの応急処置等と、来たら交通整理等です。

委員 J

・CDはどなたが作成されたのですか。
・参考で、私たちの青色パトロールのテープですが、世代間交流ということで中学校の放送部の生徒さんにつくってもらいました。なるべく世代間交流を意識されたほうがよろしいかと存じます。

委員 H

・CDインターネットから曲をひっぱりました。
・世代間交流は十分認識しており、児童にポスターを作成してもらったんです。ただ急ぎでしたので、私たちだけで作成しました。これからは小学生から等もお願いしていこうと考えております。

閉

会

以上で終了させていただきます。